

様式第1号（第6条関係）

協働事業に関する提案書

令和6年1月9日

（あて先）狭山市長

団体名 AKTO

所在地

代表者名 小島 瑛介

次のとおり、協働事業に関して提案します。

1 提案する協働事業	市民提案型協働事業
2 事業名	イベント型子どもの居場所づくり事業
3 事業期間	令和6年4月1日から令和7年3月31日
4 事業種別	<input checked="" type="checkbox"/> 単年度事業 <input type="checkbox"/> 継続事業
5 事業予算	総額 350,500 円（内補助金申請額 350,000 円）
6 事業概要 ※100字以内で簡潔に記入してください	2024年6月から毎月1回、主に中学生を対象に「何もしなくてもいい」をコンセプトにした居場所を開催する。 また、隔月でその居場所でのイベントを企画・開催する。 事前にボランティアの募集を目的とした子どもとの接し方講習会を開催する。
7 希望する担当課 ※不明の場合は未記入	部 課
8 添付書類	<input checked="" type="checkbox"/> 協働事業に関する企画書（様式第2号） <input checked="" type="checkbox"/> 協働事業収支予算書（様式第3号） <input checked="" type="checkbox"/> 協働事業実施スケジュール（様式第4号） <input checked="" type="checkbox"/> 協働事業提案団体概要書（様式第5号）



協働事業に関する企画書

団体名 AKTO

<p>1 事業名</p>	<p>イベント型子どもの居場所づくり事業</p>
<p>2 事業の詳細</p>	<p>近年、子どもたちへの支援の1つとして子どもの居場所づくりが注目されており、様々な居場所が立ち上がってきている。しかし、どのような場を居場所と感じるかは子どもによって異なり、多種多様な居場所が必要である。また、特に居場所が不足している子どもは、日本財団(2020年)の調査や子ども家庭庁(令和5年)の調査から、約4割程度いることが分かる。</p> <p>そこで、「いる理由」を求めず申込不要で出入り自由な「何もしなくてもいい」をコンセプトとした居場所を定期開催する。ここでは、ゆっくり休むだけでもいい、宿題をしてもいい、スタッフと一緒に話したり、ボードゲーム等を楽しんだりしてもいい。また、隔月でこの居場所内でのイベントを企画・開催し、広く当居場所への関心を持ってもらうとともに、居場所のニーズを探り、今後の居場所づくりに活かしていく。この居場所での活動を通じて、子どもとの関係性の構築を目指し、問題が発見された際には行政等への支援に繋げていく。また、地域の人たちにより子どもへの関心を持ってもらうために、ボランティアスタッフの募集を目的とした講習会も実施する。</p>
<p>3 実施体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回(全10回)、公民館にて実施。 ・団体メンバーが中心となり運営。 ・サポートとしてボランティアスタッフに協力してもらう。

<p>4 役割分担</p>	<p>【提案団体の役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本居場所事業の企画・運営、各方面との連携づくり ・子どもの居場所づくりへの関わりを希望する人材の発掘
	<p>【市の役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報および事業の支援や助言等 ・支援に繋げていくために行政や各方面とのネットワーク強化の協力
<p>5 協働の効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行政との連携により、必要な支援に繋げる機会の強化 ・公共施設や関連団体、地域企業等との幅広い連携のための関係づくり ・事業 PR の機会の強化
<p>6 事業のアピールポイント</p>	<p>イベントの定期開催により居場所に来てもらう最初の一步のハードルを下げるとともに、イベント開催日でもそうでない日でも居心地のいい場づくりを心掛け、「いる理由」を求めない「一人でも来られる場」の創出を行う。また、事業を通して居場所に求められるニーズを探るとともに、子どもとの信頼関係構築を図り、行政や関係団体と連携しながら必要な支援に繋げる一助を担う。</p>